

平成18年仕事始め式 市長訓示（要旨）

平成18年1月4日

平成18年は、「元気な伊勢原・ふるさとづくり」の実現に向けて具体的な取り組みを行う年となる。

昨年は、「市民参加の推進」、「行財政改革」、「いせはら21プラン後期実施計画の策定」など、新たな取り組みの基本となるものができた。その上にたって、伊勢原のまちづくりに取り組んでいただきたい。

今年のキーワードとして、「改革」と「協働」を提示したい。社会経済状況は回復傾向にあると言われているが、行政分野に到達するまでは時間がかかる。社会状況としては、人口減少時代や地方分権の推進、三位一体の改革といった新たな要素が加わり、行政のしくみやスタイルを変えていかねばならない。

幹部職員をはじめ、全職員に次のことをお願いする。

スピード感を持って行政に取り組んでほしい。

テーマ別市民会議の意見にもあったが、市民が求めているのは行政対応の姿勢である。スピード感という言葉も多く聞かれた。待ちの姿勢ではなく、先手を打つ取り組みをしてほしい。

現場主義の徹底をお願いする。

職員は、あらゆる場面で市民と接触する努力をし、さらに現場主義の徹底という意識を植え付けてほしい。市民との話し合いの時間をできるだけ多く取り、理解を得る姿勢を堅持してほしい。

市民感覚を常に持ってほしい。

人は立場が違えば見えてくるものも違ってくる。すべての業務内容、やり方を視点や立場を変えて徹底的な検証をしてほしい。

幹部職員をお願いする。団塊の世代の大量退職時代を目前にし、次世代育成は急務である。部下は上司を見て育つ。幹部職員は、部下の良きロールモデルとなるよう努力してほしい。職員一人ひとりの努力により、伊勢原の独自性、個性、特徴を見い出してほしい。

今年は取り組みの成果が具体的に求められる年。地方分権が進む中、いかに伊勢原市が自立性を保ちながら、発展することができるのか。また、「元気な伊勢原・ふるさとづくり」が実現できるのか。大きな岐路に立っている。職員の着実で明確な対応をお願いしたい。